



鹿部町立鹿部中学校

学校通信 第7号

電話 7-3114

令和7年10月22日発行

在籍生徒数86名

1A 26名 ひまわり4名

2A 26名 ひまわり2名

3A 34名 ひまわり2名

《重点教育目標》

「主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力」の育成

スローガン 「一歩前へ」 ～ 考 動・共 生・創 造 ～

創意工夫と情熱が込められた海嶺祭 ～新たな学校文化の創造～

校長 坂 本 学

「笑動～笑うだけじゃだめですか」をテーマに開催した今年度の海嶺祭を無事に終了することができました。

当初は9月30日（火）に開催を予定していましたが、前日に2年生の十数名がマイコプラズマ肺炎による発熱や咳の症状を訴え、欠席したことから、10月1日（水）まで学年閉鎖とし、海嶺祭も延期を余儀なくされました。学年閉鎖期間中は生徒の健康回復を祈りましたが、開催当日も2年生の欠席が多く、心が痛む思いでした。

しかし、今後の教育活動の推進等を総合的に判断し、10月3日（金）の開催といたしました。

欠席した生徒や延期に伴い来校できなくなった保護者の皆様にも海嶺祭の臨場感を共有していただけるよう、町教委の多大な御協力をいただき、当日の様子をYouTubeでライブ配信いたしました。

そのような中ではありましたが、多くの保護者・地域の皆様に御来校いただき、生徒が繰り広げた表現活動に対し、温かな御声援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

私は「海嶺祭を通して、生徒同士が学年の垣根を越えて、心と心のふれあいを大切にしながら、協力して準備を進め、意見を交わし助け合うことで絆を深め、人と人とのふれあいって素晴らしいなあと実感してほしい」と期待しておりました。

準備段階から一人一人が力を発揮し、仲間とともに何かを成し遂げる喜びを感じることができたのではないかと思います。困難もあったかもしれませんが、それを乗り越えて見事にやり遂げた生徒の姿を見て、**新たな学校文化の創造に繋がる確かな一歩**を踏み出したと感じ、私は本当に誇らしく思いました。

また、当日の教科展示、主張コンクール、吹奏楽部発表、生徒企画のパフォーマンスには、生徒一人一人の創意工夫と情熱が込められており、観覧席からもその熱意がひしひしと伝わってきました。

特に、合唱発表では1年生のすがすがしさ、

2年生の人数の少ない中でも懸命に表現するひたむきさ、3年生の「これぞ最高学年」といえる美しいハーモニーが印象的でした。

そして、体育館に全校生徒の歌声が響き渡った全校合唱は、会場全体を感動に包み込み、私自身も深く心を打たれました。

本校生徒が準備から本番まで全力で取り組むことができたのは教職員、保護者、そして地域の皆様の御支援の賜であり改めて深く感謝申し上げます。

心のスイッチを入れて

教育者の東井義男氏は「心のスイッチ」という詩の中で、次のように述べています。『人間の耳はふしぎな耳。聞こうという心がなかったら聞いていても聞こえない。頭もそうだ。はじめからよい頭、わるい頭の区別があるのではないようだ。「よし、やるぞ!」と心のスイッチが入ると、頭も素晴らしい働きをし始める』

この言葉は、**学ぶ意欲や主体的な姿勢の大切さ**を教えてください。誰かにやらされるのではなく、自分の中にある**「心のスイッチ」を入れることこそ、学びの第一歩**です。

秋を迎え、学習に集中して取り組む季節となりました。鹿部中生一人一人が、「学びを磨く秋」として心のスイッチを入れ、日々の学習に前向きに挑戦してくれることを期待します。

※引用：東井義雄『心のスイッチ』（『ことばの教育』より）



朝夕の気温が下がり、秋の訪れを感じる季節となりました。インフルエンザの流行も例年より早くなっているようですので、生徒の健康管理への御協力をよろしくお願いいたします。

また、クマの出没に関するニュースも報じられております。登下校時の安全確保についても、引き続き御配慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。



鹿部町を学ぶ

10月8日（水）5時間目に、鹿部町長 盛田昌彦様をお招きし、1年生が鹿部町の歴史や産業・町の成り立ちについてのお話を伺いました。昔の漁業の様子や間欠泉・たらこなど現在の特産品の紹介に加え、観光や地域活性化に向けた今後のまちづくりの展望についても語っていただきました。自分たちが住む町、鹿部町の魅力と可能性を再発見できる大変貴重な時間となりました。貴重な講話から学んだ生徒のコメントを載せました。

- ずっと鹿部にいて知らなかったこと、知って得をすることなどまた一つ知識が増えました。
- 鹿部についてたくさんのことを学びました。町長が私たちにさらに多くのことを教えてくれたことに感謝しています。
- 持続可能な地域社会や子供たちの夢が叶うまちをつくらせてもらう側じゃなくてつくる側になろうと思いました。
- 鹿部町の始まりが昆布だったのが意外でした。昔は農業があったこと、噴火で農業をする人たちはほかの地域に移り住んでいったことが驚きでした。



和の音色にふれる

～琴の体験学習～



10月10日（金）鹿部町の箏サークル「遊音（ゆうね）」の方々をお招きし、和楽器の「琴」の授業を実施しました。はじめは、琴について学び、サークルの方々に2曲演奏していただきました。その後、初めて触れる日本の伝統楽器に戸惑いながら、音を出せた時の喜びや、和の音色の美しさを感じることができました。最後は、全員で「さくら」を演奏して授業を終えました。

海嶺祭



1日防災学校

10月7日（火）に授業参観を兼ねた1日防災学校を実施しました。噴火を想定した避難訓練や、防災に関する講話、煙体験、各学年でロープワーク・避難所運営ゲーム・救急救命講習を体験し、それぞれの立場で災害時にどう行動すべきかを考える機会となりました。実際の災害を想定した体験を通じて、日ごろの備えの大切さを実感しました。今後も自分の命を守る意識を高めていきたいです。